

平成23年東日本大震災における消防の活動

岩手県釜石大槌地区行政事務組合
大槌消防署 署長 岩間 淳

1 はじめに

平成23年3月11日（金）午後2時46分、三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震（M9.0、最大震度7）が発生し、東日本を中心に大きな被害をもたらしました。

この地震は、太平洋プレートと陸のプレートの境界で、長さ450km、幅200kmにもわたる断層の破壊により発生した国内観測史上最大規模のものであります。

当署管内の岩手県大槌町の市街地及び役場では町長と課長級7人及び消防職員2人が津波の犠牲となり、町の機能が壊滅するなど人的・物的被害が甚大でありました。

2 地震の概要

（1）地震の規模等

発生時刻	平成23年3月11日（金）14時46分
震央地名	三陸沖（北緯38.1度、東経142.9度）
震源の深さ	24km
地震の規模	M9.0（暫定値）
震度	6弱

（2）津波警報等

3月11日（金）14時49分	大津波警報
3月12日（土）20時20分	津波警報に切替
3月13日（日）7時30分	津波注意報に切替
3月13日（日）17時58分	津波注意報解除

3 被害の状況

この震災により、人的被害について大槌町では平成23年6月10日現在で、死者778人、行方不明者952人となり、全町民の約1割が犠牲となりました。

物的被害では、全壊3,084棟、半壊593棟、一部破損68棟の被害が発生しました。



倒壊した防波堤



民宿屋上に乗った観光船「はまゆり」



J R 山田線の鉄橋が流出



被災した大槌消防署

4 消防機関の活動及び被害状況

(1) 消防署

3月11日(金) 海岸・河川水門の閉鎖及び消防車、救急車による住民への避難誘導、避難広報活動に従事。その後、津波により13人が消防署屋上に避難し孤立状態となる。

3月12日(土) 午前9時ころに自衛隊ヘリコプターに救助され、寺野地区町営野球場へ搬送となる。その後、町営野球場控室を拠点として、消火・救助・救急・人命検索活動に従事する。

(2) 消防団

3月11日(金) 海岸・河川水門の閉鎖及び消防車による住民への避難誘導、避難広報活動に従事。震災後には、消火・救助・人命検索活動に従事する。

(3) 緊急消防援助隊

震災翌日には大阪府先遣隊が投入され、13日から懸命な消火・救助・救急・人命検索活動が実施された。(大阪府隊、大分県隊)

(4) 消防機関の被害状況

消防機関の被害状況は表1のとおりです。

表1 被害状況

	人的被害		建物被害	車両等被害
	死者 (人)	行方不明 (人)		
消防署の主な被害	2	0	消防庁舎：1棟	車両：5台
消防団の主な被害	11	5	消防団屯所：7棟	車両：4台
婦人消防協力隊	4	10		
計	17	15	8棟	車両：9台

5 終わりに

現在も、この大地震に対して緊急消防援助隊、自衛隊、警察、海上保安部、ボランティア等の多岐にわたる各機関の懸命の活動が続いています。

この大震災を「未曾有」の災害としてとらえることなく、想定を超える災害でも命が助かる住民の安心・安全を優先とした防災計画を策定することが課題でもあります。

最後にこの大震災で亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りし、被災地として1日も早い復旧復興に向けて尽力していきたいと思います。